

**平成31年度**  
**劇場・音楽堂等機能強化推進事業**  
**(共同制作支援事業)**  
**成果報告書**

事業（公演）名	共同制作オペラ ヴェルディ歌劇『ラ・トラヴィアータ』
代表団体名	東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
劇場・音楽堂等の名称	白河文化交流館コミネス、金沢歌劇座、東京芸術劇場
実演芸術団体等の名称	(公財)石川県音楽文化振興事業団(オーケストラアンサンブル金沢) (公財)読売日本交響楽団
内定額	35,039 (千円)

# 1. 事業概要

## (1) 事業の概要

趣旨・目的、ニーズ等
『ラ・トラヴィアータ』をオペラ初挑戦となる演出家による新たな視点でアプローチする機会とすることで我が国のオペラ上演史上、繰り返し上演（再演）されてきた当作品を今一度見直し、本来の意味での”新演出”による創造発信を行うことを目的とする。また、地元で選抜する合唱団と地元のオーケストラが出演することで高品質な日本ならではのオペラを通じ、各地域における芸術文化機会の創出、地域間連携を図ることで未来につながる舞台作りを実現する。さらに日本を代表する若手、中堅歌手を実力本位で積極的に起用し、アーティスト育成も意図することで我が国の音楽文化の底上げの一助となるよう努める。一方、運営面では各種バリアフリー化、多言語化に出来る限り取り組み、障害者を含む、不特定多数の国民、外国人が来場しやすい環境整備にチャレンジすることで劇場法の精神に則り、各劇場が地域に開かれたアーツセンターの役割を公演を通じ果たしていく。
実施日時・実施会場（所在地）・実施回数
2020年(3都市3公演) (1) 2月9日(日) 14時 白河文化交流館コミネス(福島県白河市)、1回 (2) 2月16日(日) 14時 金沢歌劇座(石川県金沢市)、1回 (3) 2月22日(土) 14時 東京芸術劇場コンサートホール、1回
演目・曲目、幕構成、主な出演者、主なスタッフ、あらすじ等
<u>ヴェルディ 歌劇『ラ・トラヴィアータ』(椿姫) 全幕</u> 指揮：ヘンリック・シェーファー、演出・振付：矢内原美邦、照明：伊藤雅一、音響：石丸耕一、 衣裳：田中洋介、映像：高橋啓祐、美術：松生紘子、舞台監督：酒井健 ヴィオレッタ：エカテリーナ・バカノヴァ、フローラ：醍醐園佳、アンニーナ：森山京子、アルフレード：宮里直樹 ジェルモン：三浦克次、ガストーネ：古橋郷平、ドウフォール男爵：三戸大久、ドゥビニー：高橋洋介、等 管弦楽：オーケストラ・アンサンブル金沢(白河、金沢公演)、読売日本交響楽団(東京公演) プロデューサー：志賀野桂一(白河文化交流館コミネス)、中村よしき・横堀応彦(東京芸術劇場)
事業(公演)の特徴、鑑賞者利用者拡大のための工夫点又は戦略等
公演の特徴 ・新しい切り口での演出を行うことで創造的なオペラの制作に努めた。 ・特定の団体に偏らない適材適所のブッキングを広く公平に選抜し、我が国のオペラ文化の向上を図った。 ・我が国を代表する若手、中堅ソリスト及び俳優・ダンサーを一部役で公募オーディションを行い公平に選抜した。 鑑賞者拡大の工夫 ・若い客層のニーズを継続して調査し、中長期的な視点にたって、オペラファンの拡大を目指す工夫を行った。 ・劇作家・演出家としても進境著しい矢内原氏が、創造的で新鮮な『椿姫』を制作し、ダンス、映像、美術などオペラ以外の客層拡大に繋がった。
共同制作を行う劇場・音楽堂等、実演芸術団体
白河文化交流館コミネス(NPO法人カルチャーネットワーク、白河市)、 金沢歌劇座(公益財団法人金沢芸術創造財団)、 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) オーケストラ・アンサンブル金沢(公益財団法人石川県音楽文化振興事業団)、 読売日本交響楽団(公益財団法人読売日本交響楽団)、

共催者・協賛者・後援者・関係機関

金沢公演 特別協力：北國新聞社、一般財団法人石川県芸術文化協会

後援：北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、北陸朝日放送、エフエム石川

全公演 協力：劇場、音楽堂等連絡協議会（広報協力）

(2) 事業の目標値、実績値

実施会場	実施日程	入場者・参加者数	
		目標値	実績値
白河文化交流館コミネス	2月9日(日) 14時	目標値	750名
		実績値	750名
金沢歌劇座	2月16日(日) 14時	目標値	1400名
		実績値	1305名
東京芸術劇場	2月22日(土) 14時	目標値	1400名
		実績値	1523名
		目標値	
		実績値	
		目標値	
		実績値	
		目標値	
		実績値	

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p data-bbox="113 309 1477 342">共同制作支援事業の意図や役割分担など事業が適切に組み立てられた（と認められる）か。</p> <p data-bbox="113 394 368 421">公演における役割分担</p> <p data-bbox="113 427 288 454"><u>東京芸術劇場</u></p> <ul data-bbox="193 465 1378 535" style="list-style-type: none"><li>・ 共通経費のとりまとめ及び指揮者、演出、ソリストに関わる交渉連絡関係、オーディション実施、記者会見実施、リハーサル全体及び助成金取りまとめ</li></ul> <p data-bbox="113 546 288 573"><u>コミネス白河</u></p> <ul data-bbox="193 584 951 611" style="list-style-type: none"><li>・ 公演全体に関する広報、チラシ、プログラム作成とりまとめ。</li></ul> <p data-bbox="113 622 264 649"><u>金沢歌劇座</u></p> <ul data-bbox="193 660 818 687" style="list-style-type: none"><li>・ ツアー旅程とりまとめ（支払い）、事業報告書作成</li></ul> <p data-bbox="113 698 531 725"><u>オーケストラ・アンサンブル金沢</u></p> <ul data-bbox="193 736 884 763" style="list-style-type: none"><li>・ オーケストラ、ボーカル楽譜関係のとりまとめ、支払い</li></ul> <p data-bbox="169 819 1469 1048">3 劇場が持ち回りで開催した共同制作会議において、各劇場の役割分担を以上のように取り決め、適宜それぞれが連携し公演実施に至った。各劇場が責任をもって協働し、プロジェクト進行に関して密な情報共有を行ったことで、大きな事故もなく適切なプロジェクト運営を行うことが出来た。また 2020 年 1 月の立ち稽古開始以降は 3 劇場の制作スタッフがローテーションを組み、立ち稽古に参加し運営を行った。これによりそれぞれが責任を等しく分担することが可能となり、共同制作支援事業の理念に基づいた理想的な運営体制と役割分担を当初の計画から大きな齟齬なく実施することに成功したと自負している。</p>
<p data-bbox="153 1173 986 1200">助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか</p> <p data-bbox="113 1256 1469 1447">先述の役割分担に基づき、東北、北陸、関東という遠隔地域の劇場が協働したことにより、単独ではなし得なく、パッケージではない、内容的に独創性の高い創造発信につながる最高品質のオペラ上演、地域の文化力を著しく向上させる効果が可能となった。これは 2009 年の「トゥーランドット」以来、毎年実施している全国共同制作プロジェクトの成果であり、今後も継続していくべき文化的意義を有した事業であると確信している。今回は特に人口 6 万人弱の白河市（福島県）で初となる共同制作オペラを実施したことに関し、</p> <ol data-bbox="153 1496 1114 1608" style="list-style-type: none"><li>① 全国津々浦々でクオリティの高いオペラを実施するという文化的理念の達成</li><li>② ツアー全体で地元滞在することの経済的、社会的意義</li><li>③ 初参加の劇場職員の公演制作スキルアップ、ノウハウの蓄積</li></ol> <p data-bbox="113 1653 435 1680">を達成することができた。</p> <p data-bbox="113 1736 1469 1848">また今回も昨年の共同制作オペラに引き続き全公演で磁気ループを導入し、聴覚障害者が来場しやすい環境整備を行った。さらに英語字幕を作成することで、オリンピック、パラリンピックへ向け、多言語化対応を図るなど我が国で独自のオペラ制作を行う社会的意義を具現化した。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

本事業における目標を次のように設定し、達成した。

【1】参加するホール間の連携交流や協働を通じ、劇場制作・舞台技術スタッフの養成を図る。

⇒制作スタッフの協働による各地制作スタッフのスキルアップに加え、劇場技術スタッフ(音響プランナーとして)が立ち稽古から参加し、各劇場でのオペレートを務めた他、各劇場技術職員への技術の伝播により技術スキルの向上に寄与した。

【2】参加各地域のオーケストラ、合唱団を起用し、地域活性化と普及啓発に繋げる。また、多言語化、バリアフリー化を推進する。

⇒各地域のコーラスを起用することで地域音楽文化の活性化を図った。地元地域のプロオーケストラと連携を行うことで協力関係を築いた。(プロオケのない白河に関しては2公演目となる金沢と同一にすることで効率化を図った) 英語字幕の作成、全劇場で時期ループの設置、稼働を行うことで、多言語化、バリアフリー化を推進した。

【3】業務を分担する事で、参加劇場がそれぞれ当作品制作に責任を持ち、広報力強化やチケット販売への努力をし、各館が興行リスクに責任を持ち、チケット販売の経験を深めることで、将来的なアーツセンター機能の活性化の一助とする。

⇒3劇場ともに目標を概ね達成し、劇場としての機能強化につとめることが出来た。

【4】東北、関東、北陸という遠隔地域の劇場が協働することにより、単独ではなし得なく、パッケージではない、内容的に独創性の高いオペラ上演、地域の文化力を著しく向上させる効果が可能となる。

⇒遠隔地域で同一プロジェクトを共同制作したことで、マーケットを食い合わずにオリジナリティある上演を実現することが出来た。また全参加劇場で制作のみならず舞台、広報などのセクション間交流も図ることが出来た。

【5】公平な公募オーディションにより若手・中堅の出演者を起用し、作品制作を通じた人材育成を図る。

⇒ソリスト一部および助演の公募オーディションを実施した。結果的に若手・中堅が中心となったため、時間をかけ一つの舞台を作り上げることで10年後の我が国のオペラ界を牽引する人材の育成を図ることが出来たと自負する。また矢内原氏の粘り強い演出姿勢は氏が将来日本の劇場文化を牽引することに繋がる成果を得た。ともに時間を共有し、一つの作品を粘り強く作り上げたことで10年後の我が国のオペラ界を牽引する人材を育成することが出来た。

【6】地域住民に感動と幸福を実感、共有できる内容の公演を目指す。

⇒高額な制作費は掛けられないものの、様々な工夫を凝らし、他では見ることのできない独自性が高く、かつ我が国で上演する意味のあるプロジェクトとして成功した。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 【事業期間】

当共同制作オペラシリーズでは 2009 年の「トゥーランドット」以来、限られたリハーサル期間の中で最大限の成果を上げる作品制作を目指してきた。この間には様々な試行錯誤があったが、平均して約 2~3 週間の稽古期間の中で集中的にリハーサルを行うことを基本としている。今回のプロジェクトではこれまでより約 1 週間リハーサル期間の追加し、合計 4 週間設けた。音楽では、個人の音楽稽古、アンサンブル稽古に始まり、矢内原氏による演出稽古が行われることになった。これまでの共同制作オペラでの経験を基に、あらかじめソリストによる音楽稽古スタート前に、12 月に 1 週間、助演のみで入念なフォーメーションに関する下準備を行った上で立ち稽古が行われたことにより、助演が動きを主導する効率性の高いリハーサルを行うことができた。

事業期間の効率性を求める制作サイドの思惑はアーティストに多大な負担を強いるものである。次回以降もアーティストとの信頼関係を第一に考えつつ、プロジェクトの適正規模とリハーサル期間の関係について慎重に検討しながら計画を進めていく必要がある。公演は各地本番を 1 週間ごとに休日実施したことで出演者にとっては安定したスムーズな公演進行で安全かつ安定した公演内容を実現することができた。一方、最終となる東京公演は新型コロナウイルスの影響が拡大する中、ギリギリのタイミングで実施することが出来た。

以上により、当初の計画通りに公演を完了した。

#### 【事業費】

各費目内での増減はあったものの、総予算としては当初の予算額に対して-13.2%の決算額となり、概ね計画通りに実行することが出来た。決して潤沢な制作費があるわけではないが、限られた予算の中、様々な工夫を凝らしたこと、貴振興会助成金によって安価なチケット料金で提供することができた。

以上の結果から、アウトプットに対して事業期間ならびに事業費は適切であり、当初の計画通り進行したものと考える。

## (4) 創造性

### 自己評価

我が国の実演芸術水準を向上する牽引力となることが期待できる国際的水準の公演であった（と認められる）か。

・主要なソリストは外国人（ヴィオレッタ）の他、東京芸術劇場のオペラ新演出シリーズに定期的に出演している歌手をキャスティング（これまで培った経験則に基づいて配役をした。）し、初めてオペラを演出する演出家をサポートする体制を整え、公演クオリティの維持に努めた。

→ソプラノの難役でもあるタイトルロールは外国人の起用（1幕では軽やかさが、2幕3幕では重さとスタミナが必要になる）

→ジェルモン親子に関しては、声質的にバスバリトンの高めの音も出る難役であるジェルモン（父）役が必要であるが、年齢的には親子の差をドラマ性として再現するため、実年齢に沿った配役をこれまでに当シリーズで実績のある歌手で行うことで成功した（これには今回のような新しい演出プランにもフレキシブルに対応のできる歌手でなければならないという側面もある）。

・適材適所のブックイングを広く公平に選抜し、公演を行うことで我が国のオペラ文化の向上を図った。

→別添の出演者の感想にもあるように、声質、ドラマ性の両面で既成概念を捨て去り、スコア及び海外での上演を参考に再検討（具体的にはフローラ及びアンニーナ、ドウフォール及びドウビニー役の声質を逆転させるなど）し、両面でのバランスを再構築しながらキャスティングを行った結果、音楽面、演技面で当作品に新たな光をあて、新たな発見と水準に到達することができた。

→一部の役及び助演（ダンサー、役者）では公募オーディションを行い、若手歌手、若手実演家の起用を行った。その結果、年齢構成的にジェルモン父、アンニーナの60代を筆頭にアルフレードと仲間たちは30代、40代、“使いの者”などはオーディションで選ばれた20代の歌手を起用し、ドラマの面でも台本の構成に寄り添ったものとなった。またベテラン歌手がその経験を若手・中堅歌手、若手俳優にアドバイスする環境を作り出したことで我が国のオペラ（音楽）文化の継承をも図ることに成功したと自負している。

・振付家のみならず劇作家・演出家、美術家としても活動する矢内原氏にオペラ初演出を依頼することで…

→ダンス、演技、映像を駆使した我が国のオペラファンがこれまで見てきたものとは異なる、全く新しい『ラ・トラヴィアータ』が創作された。特に東京公演では、来場者の反応がかつてないほど賛否両論（終演後のブラボーとブーイング）が盛大に沸き起こり、繰り返し上演され続けているこの有名作品の予定調和的な上演とは一線を画すセンセーショナルな上演になったことは、我が国のオペラ上演における新たな一歩になったと自負している。

以上により、①古くても新しく見せることが可能なオペラの上演形態（多様性）の実現、②オペラファンのみならず、ダンス、演劇ファンの来場、③白河、金沢での同一上演の実現による鑑賞機会の均等性（地域）を実現することができたことで、我が国の実演芸術水準を向上する牽引力となる事業になったと自負している。また、タイトルロールのバカノヴァはコヴェントガーデン、ドレスデン等で定期的に同役を歌う歌手でもあり、アルフレード役の宮里直樹の豊かで輝かしい声質、オーケストラ（アンサンブル金沢、読響）、コーラス（新国立劇場、各地合唱団）などを含めて、国際的な水準に充分達している公演であったと考える。

## (4) 創造性

### 自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながった（と認められる）か。

#### ① 白河公演

共同制作オペラ初参加で、初演を担ったコミネス白河は、人口6万人（東京の200分の1!）という小さな街である。2016年に新規開館以来、最も大きなプロジェクトとなり、館の存在感をさらに高める機会となった。館付属の合唱団は斬新でレベルの高い舞台のなかで歌と演技の両面で役割を果たし、地域の文化力の高さをアピールした。有効座席1000席程度のホールはほぼ満席となり、スタンディングオベーションも起き、大きな成功を収めた。首都圏でも画期的な事業を小都市の劇場で成功させたことは大きな成果である。

#### ② 金沢公演

過去10年オペラ制作（共同制作シリーズ、独自を含む）をつづけたことにより、金沢芸術創造財団スタッフに制作ノウハウが蓄積され、ツアー全体の手配、報告書の作成などを分担、共同制作ならではの形態でプロジェクト運営が可能となり、公演もスムーズに実施され、成功を収めた。

特にツアー手配の部分（3団体の共通支出部分（旅費交通費））では、全ての宿泊・鉄道手配にかかる業務を全て自ら行うことで、予算に対して、大幅に節約することが出来た。

本公演自身の評価は、アンケート結果を見ると、80%以上で良いという評価がある一方で、ダンサーの動きと音楽の融合という部分では、評価が分かれる部分もあった。しかしながら、これは地方都市である金沢にオペラ文化が根付いて来ている事の表れでもあると考えている。

#### ③ 東京公演

来場者の反応がかつてないほど賛否両論が沸き起こり、この繰り返し上演され続けている有名作品の予定調和的な上演とは一線を画す画期的な上演になったことはこれこそが他とは異なる当プロジェクトの存在意義でもあった。特に東京では新国立劇場でのレパートリー上演を初め、外国の著名オペラハウスの引越し公演で本作品が上演され、この作品の様々なプロダクションを数多く観ているオペラファンが多いことから取り上げることで自体の意味を含めて上演しなければならない。その環境下で当該公演は前述したように新たな視点（音楽面、演劇面の両面）で上演を実施することで意味を見出した。

★当助成により成し得た当プロジェクトは、指揮者としてスウェーデンの名門オペラハウス・ヨーテボリ歌劇場の監督であるヘンリック・シェーファー氏が経験に裏打ちされ、音楽面をバランスを重視し、統括した。

（この公演を通じ、シェーファー氏からアルフレード役を務め好演した宮里直樹氏をヨーロッパの劇場へ紹介したいという提案もその後来ている）\*指揮者コメントは資料（報告書参照）

またタイトルロール（ヴィオレッタ）には、コヴェントガーデンを初め、数多くの同役での出演経験が豊富なエカテリーナ・バカノヴァが務めることで音楽的に求心力のある舞台を創造することができた。また他の日本人ソリストも一体感のあるチームとして持てる力を存分に発揮し、最高のパフォーマンスで聴衆の期待に応えた。\*ソリストコメントは資料（報告書参照）

一方、制作側としては、劇場法に則り、観客と制作に関わった人達のみならず、連帯した各劇場の舞台スタッフ、広報スタッフを含めたノウハウの共有といった共同作業により、それぞれのスキルアップに確実に繋がっている。

この経験と蓄積が参加した劇場における劇場文化の発展及び参加したそれぞれの地域に居住する国民が、均等に我が国トップレベルの芸術に触れる機会の増加に確実に繋がっていると考えられる。

以上の理由により、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっていると自負している。